

様式第1号

事後評価シート

県土整備部

| 番号 | 事業名<br>箇所名  | 市町村名 | 事業概要                                     | 事業期間 |           |     | 事業費<br>(百万円) | 対象<br>理由 | 事後評価の結果 ※2  | 総合評価       | 担当課 | 特記事項 |
|----|-------------|------|--|------|-----------|-----|--------------|----------|---|------------|-----|------|
|    |             |      |  | 着手   | ※1<br>再評価 | 完成  |              |          |   |            |     |      |
| 8  | 河川事業<br>水流川 | 宮崎市  | 延長 970m<br>親水拠点整<br>備、低水路<br>整備<br>N=1 式 | H8   | H22       | H25 | 633          | ①        | <p>【事業の目的】<br/>水流川においては、周辺の都市化に伴い河川環境が劣悪となっていたことから、河川環境の再生として、大淀川本川からの導水による河川の水深確保と水質改善を行うとともに、低水路整備や親水拠点整備による水辺空間の創出を行い、生態系への配慮と親水性を高めることで、地域住民が親しみをもてる安らぎのある川づくりを目的としている。</p> <p>【事業効果の発現状況】<br/>コイやオイカワなどの魚類の移動に必要な水深の確保を行うための大淀川本川からの導水(0.22m<sup>3</sup>/s)を行ったことで、多様な魚類等の生息環境が再生され、また水質が改善していることが確認できている。また、水辺空間整備により親水性が高まったこともあって、地元団体による水辺を利用した各種イベントが開催されているとともに、水流川クリーンアップ活動参加者も年々増加の傾向にあり、地域住民が親しみをもてる川づくりができていいる。このようなことから、事業効果は十分に発現できている。<br/>○水流川で確認された魚類等(H26年)<br/>コウ、オイカワ、カワムツ、ギンブナ、メダカ、ウナギ、ハゼ、テナガエビ、モズクガニなど<br/>○黒橋地点での水質改善効果(BOD)<br/>H7:36.0mg/l → H29:0.9mg/l<br/>○水流川を利用したイベント<br/>大塚地域まちづくり推進委員会環境部会にて4回/年<br/>(川遊び、魚のつかみどり、水質調査、河川環境学習会など)<br/>○クリーンアップ活動参加者<br/>H23:22人、H25:334人、H28:546人</p> <p>【事業による環境の変化や環境保全】<br/>多様な魚類の生息環境の確保及び水質の改善が認められており、良好な河川環境が再生されている。</p> <p>【施設の維持管理状況】<br/>出水期前に点検を実施し、導水施設や護岸等の施設について適切に管理している。また、河川パートナーによる管理用道路の草刈りや多くの地域住民が参加する河川クリーンアップ活動が行われている。</p> <p>【今後の事業評価の必要性】<br/>事業効果が発現できており、更なる事業評価の必要はないと考えられる。</p> <p>【改善措置の必要性】<br/>事業効果が発現できており、今後の改善措置の必要はないと考えられる。</p> <p>【同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性】<br/>本事業においては、計画策定や維持管理のあり方について、地元との調整に時間を要したことから、今後は、計画段階から維持管理を含め、地元との合意形成を図り、地元と一体となって取り組む必要がある。</p> | 事業効果が認められる | 河川課 | 特になし |

(対象理由) ①全体事業費が基準額以上であり、かつ事業完了後一定期間が経過した事業  
②再度、事後評価の必要があると判断した事業

※1 再評価の実施年度については、直近のものを記載すること。  
※2 事後評価の際には、出来る限り客観的な数値を記載すること。